

はじめに

地域がん登録全国協議会第11回総会研究会は、2002年9月13日に鳥取県米子市・「米子コンベンションセンター」において開催され、12日の実務者研修会と併せて、予想以上に多くの参加者があり盛会のうちに終える事ができました。皆様方のご支援、ご援助に対し厚く御礼申し上げます。また、その記録集として「JACR モノグラフ第8号」を発刊することができますことは、関係各位のご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

本会では、「保健予防活動と地域がん登録」を主題として開催いたしました。本主題を選んだ第一の理由は、年間国民の約30万人以上が「がん」で死亡し、死因の31%を占めているという現状（2001年）において、がん対策は緊要な国民的健康課題となっており、地域がん登録制度より得られるデータはがん対策を評価し発展させること、特にがん予防に関する保健予防活動にとって重要なものであり、更なる発展を目指して討議することが大切だと考えたからです。また、ここ数年の間、個人情報保護の観点から、地域がん登録に関しては大変厳しい状況が続きましたが、現在継続討議になっております「個人情報保護法案」、あるいは2002年6月17日に文部科学省、厚生労働省から通知され、同年7月1日から施行されました「疫学研究における倫理指針」、同年8月に公布されました「健康増進法」などにより、地域がん登録制度の重要性が認識されてきていると思われます。しかし、法的裏づけや制度向上に関すること、還元方法・活用方法などにつきましてまだまだ多くの課題があり、その中で地域がん登録ががん予防に関して非常に重要かつ有効なものであることを改めて問い直し確認するというのが、本主題を選んだ第二の理由であります。

教育講演では、増加が著しい大腸がんに関して「最近の大腸がん増加とその背景」という演題で愛知県がんセンター総長の富永祐民先生に講演を頂きました。先生ご自身の健康生活実践例も含めて、大腸がん増加の背景因子に関した体系立てた解析結果を報告していただきました。もう一つの教育講演としての波平恵美子先生（お茶の水大学）に「癌告知：死と医療の文化人類学」という演題で講演していただきました。この問題については専門職だけでなく、全ての患者と患者予備軍である一般の人々によって活発に論じられる必要性が強調されました。また、特別講演では「現場で役立つ禁煙指導」について中村正和先生（大阪府健康科学センター）に報告していただき、健診や外来診療の場での禁煙指導に関する行動科学的介入について解説していただきました。

シンポジウム「保健予防活動と地域がん登録」では、がんの1次予防に関して「がん登録データが示すがん1次予防の課題」というテーマで大島明先生（大阪府立成人病センター）に、またハイリスク者に対する化学予防に関連して「HCV検診とIFN治療」について周防武昭先生（鳥取大学医学部）に報告していただきました。また、がんの2次予防に関して、「わが国のがん検診の現状と問題点」という演題で祖父江友孝先生（国立がんセンター）に、「肺がん検診と治療への展望」について清水英治先生（鳥取大学医学部）に、そして、がんの3次予防に関連したものとして「がん

登録と生存率 「がん医療の進歩と生存率向上」というテーマで津熊秀明先生（大阪府立成人病センター）に発表していただきました。さらに、地域がん登録とがん予防の関連について「地域がん登録はがん予防につながるか」という観点から岡本直幸先生（神奈川県立がんセンター）の報告していただきました。1次予防から3次予防にわたり総合的な討議が行われ、がん予防における地域がん登録の成果と課題について明らかにされました。

実務者研修会を含めた今回の総会研究会は、大変過密なスケジュールで内容も多岐にわたったものでしたが、このモノグラフが地域がん登録の更なる発展に役立ち、今後の実りある地域がん登録の活動の役立つことを祈念して、はじめの言葉とさせていただきます。

（岸本 拓治）